

なぜ標本を作らなくてはならないのか？

昆虫標本は現在の私達にとって昆虫のことを知る手助けになるだけでなく、未来への大事な宝物です。

生きたまま観察するのではいけないのか？

昆虫は非常に小さくよく似た種が多いため、種を分けるには標本にして顕微鏡レベルでの観察が必要です。また、交尾器など内部形態を見なくては分けられない種も多いです。標本にして保管することで遠い未来、その時点と現在の間で生物の分布や形態、多様性がどのように変化したのかを調べることもできます。

写真を代わりに使うことではいけないのか？

生きた昆虫の写真で種が分かる昆虫はごく一部だけであり、その場合であっても高度な技術を必要とします。さらに分類学は進歩する学問であり、分類の方法は変化します。これまで分類に使われた形質とは異なる形質が必要になることも多く、証拠として、将来の研究材料として全身の標本を半永久的に保管することが望ましいです。

細かく分ける必要はないのでは？

異なる種は進化的、生態的に異なる生き物です。昆虫を保全したり害虫として対策する場合、見た目が同じでも生態が異なる種は別の対処が必要となります。万全な対策にはきちんとした分類が不可欠です。

採集したら昆虫がいなくなるのでは？

過剰な採集が生き物を減らすことは確かにあります。しかしながら昆虫が減るわけは主に生息場所を壊すことです。食草などの環境さえ無事ならば、昆虫はすぐ元の数に戻ります。学術・教育目的で必要最小限の標本を作ったとしても、影響は小さいと考えています。

私達は昆虫標本を：

1. 学術・教育目的で作成し、必要最小限だけにします
1. 標本には記録を残し、将来のために責任持って保管します
1. 教育や研究目的のために必要な求めに応じ提供できるような体制を作ります

2019.2.xx

昆虫はかせネットワーク